

人権教育特設授業(3年生)

1 日時 平成19年6月21日

2 授業形態 担任による学級指導

3 題材 「ちがいのちがい」 気づく・学ぶ・広げる 人権学習 発行:和歌山県教育委員会

4 題材設定の理由

3年生社会科では公民的分野を学習する。その学習内容として日本国憲法を中心に基本的人権の学習がある。平等権から始まり自由権や社会権へと発展し、生徒たちは社会に現存する人権に関わるさまざまな問題を知る。そして、それらの問題を私たちはどのように解決してきたか、また、解決しようとしているかを学習する。これらの学習を終えた生徒たちの現実、周りにいる人は「同じ」という感覚をもって暮らし、「違い」はおかしいこと、排除する方向で捉えがちである。このことは、時にはイジメに発展する危険性をもっている。

個性化時代と言われる現代、「違っていいんだ」という実に多様な違いの中で生きていることに気づき、「違ってはいけない」という生徒たちの身近に存在する不合理や偏見を発見し、考える演習的な学習と位置づけ、多様性を受け入れる態度を養う機会とする。

5 目標

「あっていい違い」「あってはならない違い」に気づき多文化共生や多様性を受容する心を養うとともに、人権を尊重し、偏見や差別意識を解消する視点を持たせる。

ア 題材を通じて、社会に現存する差別や不合理や偏見に気づき、解消しようとする気持を養う。

イ 題材を通じて、「差別」と「区別」の違いについて気づき、人権に対する感覚を磨く。

6 展開

指導内容	活動内容	留意点等
グループ編成 分類のための話し合い ・発表 ・意見交換 ・ふりかえり	・グループ編成 ・それぞれのグループごとで「あってもいいちがい」なのか「あってはならないちがい」なのかについて話し合い分類する。 ・グループごとに、分けた理由について発表する。 ・発表内容についての質疑応答 ・「どちらとも言えない」カードについて、意見交換をする。 ・作文	準備物 「ちがいのちがい」カード 発表用紙等の文具 ・グループ内で分類が難しい、意見の一致しないカードは、「どちらとも言えない」と分類する。 ・自由に話し合える雰囲気を作りたい。 ・カードの内容についてあって良いのか悪いのかについて結論づけることが目標ではなく、なぜ、そのように考えるのかという、一人一人の考えや感じ方を大切にしたい。

人権教育特設授業(3年生)

1 日時 平成19年10月29日

2 授業形態 担任による学級指導

3 題材 「社用紙から統一用紙へ」 気づく・学ぶ・広げる 人権学習 発行:和歌山県教育委員会

4 題材設定の理由

中学校生活も残り少なくなった。少子化や高齢化に関わる問題、地球環境を取りまく諸問題など現代社会は様々な問題を抱えている。先行きの読めない社会情勢の中で3年生の生徒たちは自らの進路決定の時期を迎えようとしている。生徒たちは、高校進学や就職など、各自さまざまな将来を思い描きつつある。

本時は、日本国憲法にも明記されている「職業選択の自由は誰にも保障されている権利である」ということが、不合理な理由により保障されないという差別事象の解決のための取り組みの一つである「社用紙と統一用紙」を題材とする。

前期の授業と同じように考える演習的な学習を通じて、この題材を生徒自身の人権基準に照らして検証し、何が問題であるかを読み取るとともに、差別の解消に取り組んだ成果の一つを知ることによって将来への明るい展望としたい。

5 目標

本人の能力・適性・意欲と直接関係のない差別選考は、基本的人権を侵害する重大な問題であることを理解するとともに、差別解消への取り組みを知ることによって差別を許さない態度と差別解消への実践力を養う。

6 展開

指導内容	学習内容	留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成 ・「職業選択の自由」 ・社用紙の内容を検討する ・発表 ・統一用紙の内容を知る ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成 ・「職業選択の自由」の主旨について再確認する。 ・社用紙の内容から、個人の能力や適性とは関係ないことを話し合い見つけ出す。 ・話し合いの内容を発表する。 ・意見交換と質疑応答 ・2つの用紙を比較することで、問題解消のためにどのようなことが改善されているかに気づく。 ・作文 	準備物 社用紙と統一用紙 市販の履歴書 <ul style="list-style-type: none"> ・本籍や筆頭者、続柄など言葉について説明が必要と思われる。 ・就職の採用時、大切なことは何かを確認させる。